

# 芽生えました、大きな志

## 東京研修報告 2学年担当 三好敬子(高30)



193人が参加した東京研修

平成22年度の東京研修は第2学年193名(男子124名女子69名)で8月2〜4日に実施されました。

初日は、東京近郊の松下政経塾・三菱重工本社工場等の5つのグループに分かれての研修、夜は卒業生との交流会。二日目はつくば市内の研究所を訪問するグループと市内の企業を訪問するグループに分かれて研修し、最終日は東京大学のオープンキャンパスに参加しました。

企業や研究施設での研修で働くことが身近に感じられるようになり、日本から世界に向けて社会に出て働くに当たっての大きな志が芽生えたと確信します。

交流会では、望月東京支部長・関岡事務局長をはじめとして社会人14名、学生38名の方々に参加していただき貴重な時間を過ごせました。先輩の個性豊かな輝きや、後輩へのメッセージを肌で感じ、生徒たちは企業訪問で感じた以上に、未来に向けての大きな夢をより身近で具体的なものとしてとらえることができました。また、強い絆で

結びれた活発な同窓会活動を実感し、職員としても安心して生徒の挑戦を後押しできるとの意を強くしました。この場を借りて御礼申し上げます。

自分を見つめ直す機会に

2年2組 青木香菜校

私は、今回の研修で多くのことを学びました。誇りを持つて自分の仕事を語る企業の方々や、活気ある職場で仕事に打ち込んでいるの方々、また大学生の先輩方を含めて自分の目標のために努力して充実した「今」を過ごしている方々は皆さんとても輝いていました。その姿にふれ、日常生活ではできない貴重な経験をし

て今までは違う観点から自分を見つめ直すことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

将来しっかりと考えたい

2年3組 坂田晃祐

私は、積極的に質問をしたり、自分の目でしっかりと見るように心がけてこの研修をより有意義なものにしました。その結果、自分がいかに狭い視野で自分の将来のことを考えていたかに気づかされました。特に先輩方との交流会ではどの先輩からも「今できることを精一杯やれ」というメッセージをいただき、自分を見つめ直すよい機会になりました。

勢17名という大人気で大分で行われる九州大会に向かった。結果は50対平泳ぎで僕が3位、同じく2年の佐瀬君が4位、個人メドレーで僕が5位に入賞した。

夏のインターハイ予選では思うような結果が残せませんでした。

2年6組 江頭弘樹

僕はまず、三菱重工で日本の技術が本場に世界のトップレベルであることを目の当たりにして感動した。夜の卒業生との交流会では「日々を大切に」「今だからできることを精一杯全力です」ということが話された。これまでも言われてきたことだが、先輩方から直接聞くことへの響き方が違った。こんな素晴らしい卒業生がいる筑紫丘にいる僕は恵まれているのだと

ました。この成果を生かしてこれからの学校生活を充実させようと思います。

日本の技術に感動した

2年6組 江頭弘樹

私は一日目の研修で松下政経塾に行き、塾生の人と一緒にディスカッションを経験しました。そこでは目的意識を持つことと、他人ではなく自分自身がしっかり考えることの大切さを学びました。このことは、その日の夜の卒業生との交流会でうかがった先輩方の話と通じる点がたくさんあり、頑張ろうという気持ちがいっそう強くなりました。この気持ちを忘れず、これからの生活に役立てていきたいと思っています。

でしたが、高校生のトップレベルの泳ぎを見ることができたことで競泳への強い思いが植え付けられた。今後は現状に満足せず、日々練習に集中して来年の高校生最後のシーズンに向けて完全燃焼できるように頑張りたいと思います。

同財団法人は、筑中・筑高

2年8組 川口真史

今回の研修の中でいちばんの収穫だったのは、卒業生との交流会だ。始まる前は、今日参加する先輩はみなスゴイ人たちなんだろうと緊張していたが、実際には皆部活や行事に熱中し、多忙な高校生生活を送った僕らとなら変りのない人たちだった。それだけに「やるべきことをとことんやれ」という話にも余計に説得力があった。この研修の本当の価値をいかにするかどうかは自分次第だと思ふ。今の気持ちを忘れずにこれからの学校生活を送っていきたい。

# 青春燃焼 部活報告

平成22年度の部活動の戦績について報告します。現在、部活動加入率は八割近くに達しており、運動部・文化部を問わず各部とも活発に活動しています。多くの部活動が県大会出場を果たしていますが、全国大会・九州大会に出場したのは次の通りです。

- 全国大会出場** 陸上(3年 木原舞弓さん・短距離 山岳(男子団体) 放送(3年山下優里亜さん) 将棋(3年柴田大輔君8位) 理数科課題研究発表会(3年淵上貴司君)
- 九州大会出場** 陸上(3年 前田良太君・長距離 水泳(男子団体 女子団体) 放送(2年澁谷舞佳さん) 囲碁(2年団体)

## 自分の未熟さ痛感 周囲の支えに感謝

山岳部・2年 吉村拓哉

僕たちは今年、7月に大分で行われる予定だった九州大会が口蹄疫問題のために中止となり、大きな大会を経験することなく8月のインターハイ鹿児島大会に挑みました。結果は19位。大会を終えて僕は、自分がまだ未熟であることを痛感しました。大会直後はあの時ああしていれば...と思うことが多々ありましたが、それは、その時にそれを実行

## 夏の悔しさバネに 日々の練習に集中

水泳部・2年 上萬樹生

7月、高体連九州大会が開催され、僕たち水泳部は男女合わせて総勢17名で沖縄に向かった。残念ながらインターハイに進む選手は出ず、3年生は引退した。

その後、9月の新人戦で県大会では多くの選手が標準記録を突破し、男女合わせて総



8月のインターハイ鹿児島大会に臨んだ山岳部は19位に

目的持つ大切さ学んだ

2年6組 湖城朱理

私は一日目の研修で松下政経塾に行き、塾生の人と一緒にディスカッションを経験しました。そこでは目的意識を持つことと、他人ではなく自分自身がしっかり考えることの大切さを学びました。このことは、その日の夜の卒業生との交流会でうかがった先輩方の話と通じる点がたくさんあり、頑張ろうという気持ちがいっそう強くなりました。この気持ちを忘れず、これからの生活に役立てていきたいと思っています。

「核や貧困なくせ」堂々意見

高校生の主張コンクールに2年・久保田裕己君

外務省と日本国際連合との共催による平成22年度第57回「国際理解・国際協力のための高校生主張コンクール」の中央大会において、本校2年の久保田裕己君が、福岡県代表として推薦され、東京で開催された大会に参加しました。この大会は与えられたテーマについて6分以内で主張するというもので、内容が7割、表現態度が3割で審査されます。特賞受賞者は今年春に米国ニューヨーク国連本部への

## 学校林に別れ

昭和14年、福岡県は皇紀二六〇〇年記念事業として、県下の中学校に学校林の創設を進める通牒を發した。

これを受けて筑紫中学校では筑紫郡若戸村(現那珂川町)後野の山林を切り開き、昭和



①学校に移設された記念碑 ②伐採した木で作られたベンチ

15年に植林を開始した。その後も補植や維持管理を生徒の手で行ってきたが、戦後の学制改革後は、学校・PTA・同窓会の三者で学校林管理委員会を設立して、山林の管理を行ってきた。

その後、母校支援団体として財団法人福岡県立筑紫丘高



## 2年 久保田裕己

の歴史の中にかつて筑紫郡那珂川町後野の地に学校林があったことを伝えるため、同所に建てられていた「記念林」の碑を学校に移設するとともに、檜一本を伐採してベンチ三脚を制作、講堂前広場に設置した。(事務局)

視察研修派遣の資格が与えられるものです。



久保田裕己君(右から2人目)

私は昨年10月、東京の国連大学本部で開かれた「国際理解・国際協力のための高校生主張コンクール」に福岡県代表として出場しました。コンクールは、核兵器や貧困をなくすために国連が何をすべきか、あるいは日本が果たすべき役割とは何か、ということについて、経験をもとに意見を主張するというものです。私は日本が世界で唯一の被爆国である点に注目して意見をまとめて発表しました。全国から集まった26名の高校生の中には、国内や海外でボランティアをした人や、模擬国連に出た人もいて、その経験に基づいた主張は説得力があり、とてもレベルの高いものでした。

残念ながら私は入賞できませんでしたが、自分のものの見方が大きく広がる貴重な経験をすることができました。